

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	入居者様一人ひとりに、その人らしい生活を送っていただくことができるように支援する内容を主にした基本理念を、わかりやすい場所に掲示している。	○	地域に根ざした暮らしへの支援内容を盛り込み、より良い理念を作り上げていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝礼時に基本理念を唱和し、実践に向けて日々取り組んでいる。ミーティング時には、理念を掘り下げて職員全体で話し合う機会を設けている。	○	これからも、初心を忘れず、職員全員の意識を高めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	グループホーム内のわかりやすい場所に掲示し、ご家族様の面会時や、運営推進会議の時などに、理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	朝夕や散歩に出かけた時には挨拶をする。敷地内で収穫した野菜をおすそ分けしたり、隣の畑の野菜を採らせてもらったり、耕作のお手伝いをさせていただいたりして交流を持っている。また、近所の人が庭の花や作業用の手袋・ゴミ袋を持って立ち寄ってくれる。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の公民館での“いきいき体操”に参加したり、法人内のデイサービスセンターでの催しに参加して、なじみの方たちと交流している。	○	地区の小学校で実施している“PTA資源ごみ回収”に参加していく予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者様と一緒に地域活動に参加し、グループホームのことを知っていただき、気軽に立ち寄ってもらえるよう話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、日々のケアの振り返りや見直しに活用している。外部評価の結果を職員全員が把握し、サービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告や話し合いだけでなく、実際の入居者様の生活を知っていただく機会を持ち、率直なアドバイスをいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用実績の報告や介護保険更新の申請、運営推進会議のご案内等に直接出向き、積極的な関係作りに努めている。また、サービス内容等について解らないことがある時には、曖昧にせず、市町村の担当者に直接聞き、質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、現在必要としている入居者がいないため、特に学ぶ機会を持っていない。	○	学習する機会を設け、必要な人には活用できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、虐待について話し合い、防止に努めている。	○	ミーティング時を高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会に充てたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分納得していただけるよう丁寧に説明している。契約終了時には、解約の理由を明確にし、今後のことについても相談にのっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員側から声かけをし、意見、不満、苦情が話しやすい雰囲気作りに努めている。掲示板に外部への苦情・相談についてのポスターを貼り、啓発に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを発行し、暮らしぶりや新人職員のお知らせ、行事への参加協力をお願いをしている。個々の状態については、面会時や電話連絡時にお伝えしている。金銭管理については、毎月領収書を添付した利用明細書を発行している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員側から声かけをし、意見、不満、苦情が話しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議や家族会を開催して率直なご意見をいただき、サービスの質の向上を目指す取り組みに活かしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のケア会議や3ヶ月に1回の全体ミーティングの時に意見や提案を出してもらい、話し合うようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や状況の変化、要望により、適切に職員の配置を行っている。また、その都度、必要に応じて、柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がある場合には、入居者様へのダメージを防ぐ配慮を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設や外部の研修に積極的に参加し、知識や技術の向上に努めている。新人職員は年度始めに新人研修を受講する。	○ 研修に参加できなかった職員に対して、報告の場を設けたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等での研修・勉強会を通じて、情報交換を行い、サービスの質を向上させるよう努力している。	○ 相互訪問等の機会を増やし、全体のレベルを上げていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食後の休憩時間などに、ざっくばらんにいろいろな話をする中で、ストレスや悩みを把握するよう努めている。3ヶ月に1度、食事を兼ねた全体ミーティングを開き、コミュニケーションを図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	入居者様それぞれに担当の職員を置き、責任感ややりがいを感じて働く事ができるようにしている。職員の資格取得に向けた支援を行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況や求めていることの把握に努め、施設見学をしていただき、安心してもらえる関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学をしていただき、ご家族様の話を丁寧に聞いて、状況・状態・困っていることなどを把握した上で、どのような対応が一番良いか、話し合いをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者、ご家族の希望や状況を確認し、柔軟に対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者やご家族に見学に来ていただいたり、職員がご本人に会いに行かせてもらったりして、顔なじみになって安心していただけるようにしている。入居時には、早めに来ていただき、他の入居者様とも交流が図れるような時間を持つようお願いしている。	○	短期入所サービスを考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念にある、「生活のパートナーとしての意識を共有」「達成感を共に喜びあえるような暮らし」という言葉を常に念頭におき、入居者様から学んだり、支えあう関係づくりを心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、行事・家族会等に参加していただき、ご家族様の希望や思いを理解し、一緒に本人を支えるための協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や行事などの際には、楽しいひと時を過ごしていただけるような環境づくりに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用している美容院に行ったり、なじみの人たちが集う場所へ出かけて行って、楽しい時間を過ごしていただけるよう支援している。	○	個々の希望を聞き、それぞれに対応する機会を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員も一緒に入り、みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面作りをし、入居者様同士の関係がうまくいくよう見守り・支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も、行事に招待したり、入院された方や他の施設へ移られた方へのお見舞いや面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時には、ご本人やご家族の希望や要望を聞き、意向の把握に努めている。また、面会時に話を聞いたり、日々の暮らしぶりの中から思いをくみとって、サービスにつなげていけるよう検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や思い出話、ご家族との話の中から、本人の希望や思いを把握して、昔馴染みの場所に出かけたり、好みのものを見出すようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解し、日頃の言動からその人全体の把握に努めている。また、センター方式も活用し、有する力等の現状の把握に役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様やご家族の要望を聞き、課題となることを担当者を中心に話し合い、本人の希望するケアに添った介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実行の状況や効果などを定期的に評価すると共に、状態が変化した場合や、ご本人・ご家族の要望に応じて、随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日々の暮らしの様子やエピソード、その他気づいたことなどを記録し、介護経過にまとめ、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の希望や状況に応じて、通院や個別の外出等、柔軟に対応している。	○	短期入所サービスを開始したいと考えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で民生委員の意見をいただいたり、地域の交番に参加を呼びかけている。また、地区の小学校に出向き、グループホームの紹介をして、交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループ内の支援センター等、他の事業所での催し物に参加したり、本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスの利用を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、意見交換している。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、学んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の希望するかかりつけ医に、職員またはご家族によって、定期的にまた状態に合わせて随時受診することにより、協力が得られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の医療に熱心なかかりつけ医により、相談したり適切な診断や医療を受ける事ができている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者様の普段の状態や、個別の状況をよく知っている協力医療機関の看護師に相談しながら、一人ひとりの健康管理や医療的な支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者様が入院した時には、頻繁に様子を見に行き、主治医や看護師と情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のありかたについては、特に話し合う機会は持っておらず、要望があるご家族様から話聞くのみにとどまっている。	○	運営推進会議や家族会などの機会を利用し、話題を投げかけていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者様やご家族の気持ちを大切にしながら安心して過ごしていけるよう支援している。急変した場合は、すぐ対応していただけるよう普段から医療機関とも連絡を密にしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院や他の事業所に移られた場合、十分な情報提供を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声かけや介助をしないよう、職員全体で気をつけている。	○ 全職員がプライバシー確保について常に具体的に話し合い、徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様に合わせた声かけをし、表情を読み取ったり、複数の選択肢を提案したりして、一人ひとりの入居者様が自分で決定する場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、それぞれの体調やペースに合わせて柔軟に対応し、一人ひとりの入居者様が主体となって、その人らしい生活ができるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々のみだしなみやおしゃれは個々の能力や好みに合わせた支援をし、一日を気持ちよく過ごしていただけるよう気をつけている。理容・美容はなじみの店を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、献立作りや野菜の収穫・調理・片付けなどを一緒に行い、入居者様と職員が同じ物を同じテーブルでいただき、楽しい時間を過ごしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて、お買い物をしたり、おやつや飲み物を選んでもらったりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄のパターンをつかみ、声かけや誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。状態に応じて、足浴やシャワー浴などにより対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努め、ゆっくり休息・安眠できるように支援している。寝付けない時には、温かい飲み物を飲んでいただき、リラックスしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることを見極め、活躍の場を提供し、張り合いや喜びにつなげている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じてお金を持ち、買い物時に自分で支払いをしたり、職員が管理して、支払い時に手渡し見守っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、他施設での催し物などに、一人ひとりの希望に合わせて、外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族やボランティアの協力を得ながら、お墓参りや昔懐かしい場所へ出かける機会を作っている。	○	職員との会話や、つぶやきの中から出る思い出の場所へ再び行けるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望により、日常的に電話や手紙の支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設定せず、いつでも気軽に来ていただき、お茶を飲んでいただいたりしながらゆっくりと過ごせる雰囲気作りを心がけている。遠くのご家族が宿泊されることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修や勉強会に参加し、職員全体の意識を高め、拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーが設置されているため、職員が敏感に反応するよう気をつけている。状況によっては鍵を使用することもあるが、関心をそらせる工夫を行い、できるだけ鍵をかけないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に視野の中で見守りをし、気を配りながら状況の把握に努め、夜間は、居室出入り口や廊下が見渡せる場所で記録等を行い、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の管理には気を付け、一人ひとりの状態に応じて、使用時には付き添い・見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、事故防止に努めている。ヒヤリハットや事故報告書を記録し、今後の予防対策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルを全ての職員に配布し、ケア会議の時などに確認するようにしている。	○	病院や行政関係者、消防署等の協力を得て、研修を受けて、全ての職員が慌てることなく対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を行うと共に、年1回消防署の協力を得た訓練も実施している。また、運営推進会議で話し合ったり、地域の方にも協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	普段から、ご家族との関係作りを密にし、起こりうるリスクについての対応策を一緒に考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、普段の状態を把握している。様子に変化が見られたときには、バイタルチェックを行い、協力病院に相談し、必要時は受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で確認できるようにしている。入居者様が確実に服薬できるよう見守りや介助をしている。処方の変更があったときには、特に細かく観察している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	豆類や根菜・海藻類を多く取るよう心がけ、体操や歩行訓練、散歩などで体を動かすようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎週、歯科衛生士による口腔衛生指導を受け、ケアの重要性を学び、毎食後一人ひとりの口腔状態に合わせ、その人に応じた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士が作成した献立表を参考にして、栄養バランスの良い食事を提供している。水分不足とにならないよう気をつけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗い・消毒を徹底し、予防に努めている。感染症対策マニュアルを作成し、職員全員に意識付けをしている。毎年、入居者様・職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を毎日配達してもらい、新鮮な内に使うようにしている。まな板・ふきんは漂白や消毒をして清潔に心がけている。また、定期的に冷蔵庫内の点検をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に季節の花を植え、ベンチを置いて、親しみやすく、出入りがしやすい雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりがよく明るいリビングが、食事作りの音やにおいが感じられ、皆で和気藹々と過ごす場となっている。浴室やトイレはプライバシーが守られ安心して利用できるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き、くつろいだり、気の合った者同士でゆったりと過ごせるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、鏡台・テレビなど使い慣れたものを持ってきてもらい、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、朝礼後には換気を行い新鮮な空気を取り入れている。温度調節は一人ひとりに合わせて、こまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、トイレ・浴室・廊下には手すりを設置し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活の中で、入居者様それぞれのわかる力を把握し、状況や状態に合わせた環境づくりに努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜を植え収穫を喜んだり、玄関先にベンチを置き、季節の花を楽しんだり日向ぼっこができるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

人とのつながりを大切にしています。

入居者様のご家族、かかりつけの医師をはじめ、病院関係の方々、また、地域のことをいろいろアドバイス下さる民生委員さんやご近所の方々、そして、若いエネルギーを運んでくれる近くの小学生など、大切にしている人々がたくさんいます。

また、職員は、入居者様が笑顔で楽しく穏やかに、安心して生活し、すだち会グループホームに入居して良かったと言ってもらえるように。と、入居者様同士のふれあい(ちょっとした思いやりや会話等)がスムーズにいくよう配慮し、入居者様一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの思いに添い、一人ひとりに合った援助ができるよう、心がけ頑張っています。そして、職員自身の知識と技術の向上のため、いろいろな研修に積極的に参加したり、資格取得を目指して勉強しています。